

平成30年3月23日

北海道文教大学明清高等学校長  
能代 茂

## 平成29年度 学校評価結果について

保護者の皆様には、日ごろより本校の教育活動に対しましてご理解ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本校では今年も平成29年度当初に作成しました「学校評価実践計画」に基づいて教育活動を進めてまいりましたが、このたび、その学校評価結果をまとめましたのでご報告いたします。

本校では、教育活動や運営状況について学校評価を行い、その評価結果に基づいて改善と発展に向けた取り組みを行なうことで、学校と家庭や地域との連携協力による学校づくりを進めています。

この趣旨を活かすために、昨年12月に、生徒および保護者による「学校評価アンケート」と教職員による「学校自己評価」を実施し、さらに生徒へは各定期試験毎に、「生徒の自己反省及び授業理解/授業満足度アンケート」を実施しております。

保護者の皆様方からは、アンケート等を通じ、多くの貴重なご意見ご感想をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

これらのアンケート結果を参考にしつつ、分掌、学年等、全教職員で検討し、教育活動の課題などを明らかにするとともに、次年度に向けた評価改善会議を行ないました。特に満足度が低かった食物科生徒と2学年についてはその評価結果についての検証も行ないました。

今後とも、こうした学校評価結果を踏まえ、教育活動の充実・発展に努めますので、引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

## 生徒・保護者学校評価アンケート及び教職員自己評価による学校評価結果について

\* 評価結果については、A+B の合計を「満足度%」として表示しています。

〔 A:そう思う(よく当てはまる) B:だいたいそう思う(やや当てはまる) C:あまり当てはまらない D:そう思わない(全く当てはまらない) 〕

## 【 学校全般(信頼される学校づくり)について 】

項目	対象者	設 問	満足度%
1	生徒	本校に入学してよかった	53
	保護者	子供が本校に入学してよかった	91
	教職員	生徒が本校に入学してよかったと思う学校づくりに努めている	73
2	生徒	雰囲気良く、楽しく学校生活を送っている。	59
		校舎や設備に満足している	32
	保護者	子供は本校の学校生活に満足していると思う	84
	教職員	生徒の高校生活が充実するように努めている	91
3	生徒	教育活動の内容や取り組みについて十分伝えられている	60
	保護者	教育活動の内容(進路・行事等)や取り組み状況が保護者によく伝わっている	80
	教職員	シラバス・学習成績等、必要な情報を十分に生徒・保護者へ提供している	76
		懇談会や懇親会を含めて保護者との協力関係構築に努めている	76
4	生徒	本校教員は、熱心に教育活動に取り組んでいると思う	69
	保護者	本校教員は、熱心に部活動・学校行事等に取り組んでいると思う	85
	教職員	学校行事への生徒の意識向上を図るとともに、部活動や学校行事等へ積極的に参加している	82
5	生徒	本校のコース/プログラム制の授業に満足している	58
	保護者	本校の教育指導には満足している	81
	教職員	定期試験終了後の授業満足度調査によって授業改善を進めている	89
		生徒にとって適切なカリキュラムを組んでいる	76

## 評価結果について

・本校での取り組みは、保護者アンケートでの満足度結果(ほぼ全項目80%以上)からも保護者には充分理解していただいていると考えられる。生徒については、2学年全体及び食物科3年の満足度が全体的に低い。2学年については1学年次から満足度が低く、今回の満足度の低さは全体評価へ大きく影響している。また2・3学年食物科についても同様の傾向が見られる。

・食物科2・3年についても全般的に、特に[項目2]の施設・設備及び調理に係る技術向上に向けて満足度が非常に低く、全体の評価結果へ大きく影響している。

・なお食物科を含めての1学年全体と3学年普通科については高い満足度となっている。

・以上の傾向は、プログラム制への満足度(項目5)のみならず、学校や教員の取組み(項目3・4)についての満足度、さらにその他の項目についても同様といえる。

・食物科の全項目での満足度の低さは昨年指摘されていることで、このことについては食物科3年での1月の別途アンケート実施により検証し、技術検定実施等、次年度に向けた改善策を進めている。なお、その別途アンケートでも施設・設備や実習に係る満足度が低く、対策が急務といえる。

・2学年については、【学習全般について】での評価にも表われているが、1年次より人文コースの生徒に朝学習や放課後学習実施等の学習最重視の方針等への満足度が低い傾向がある。また人文コースの1・2組での評価方法に関しての感想も多く、これらについては生徒への評価に係る教科なしは教務からの共通説明が不十分であったこと、また学年団が経験的にも若かったこともあって面談指導やその他の進路的対応が後手傾向となり、生徒の不安を増長させることとなった。結果的に、【進路指導について】全般での満足度が昨年度よりも低下し、このことが学校評価全体での満足度を下げることにもなっている。この点については、学年としても改善策を検討し、対応策に取り組み中である。

・次年度に向けて、とくに生徒および保護者とのコミュニケーションをさらに密にし、生徒情報の共有化を図るとともに課題に対して早急に対応できるようにする。

【学習全般について】

項目	対象者	設 問	満足度%
1	生徒	宿題や課題は適切な量が出されている	72
	保護者	子供は、日常的に家庭学習を確保している様子がうかがえる	58
	教職員	生徒が自学自習を自らできるよう、授業等を工夫している	81
		スコラ手帳の活用を図っている	45
2	生徒	教員は教材や教え方に様々な工夫をしている	64
	保護者	成績等学習状況に関する情報は得ることができている	85
	教職員	シラバスの内容充実を図り、それに合わせた授業実践を行なっている	76
		シラバス・学習成績等、必要な情報を十分に生徒・保護者へ提供している	76
3	生徒	本校では、学力向上や資格取得に取り組んでいる	71
	保護者	本校は、学力向上や資格取得に取り組んでいる学校であると思う	90
	教職員	定期試験前後の成績不良・不振者への指導を充実させ、追試合格者数の向上を図っている	84
		実力テストや模試において十分な事前・事後指導を行っている	68
4	生徒	生徒の学習面での努力や成果を適切に評価している	65
	保護者	子供の学習面での努力や成果が、適切に評価されている	89
	教職員	生徒の学習面での努力や成果を適切に評価している	95
5	生徒	本校の学習指導体制(授業・講習等)には満足している	57
	保護者	本校の学習指導体制(授業・講習等)には満足している	85
	教職員	授業では、生徒の授業態度について、その都度、適切に指導している	90
		授業や講習等における準備を十分に行っている	67
		授業では積極的かつ情熱を持って指導している	95
評価結果について			
<p>・2・3学年食物科では満足度が低いですが、それは主に調理に関わる技術向上と施設・設備の充実についてであり、これらへの対策についてはさらなる対応に取り組む。技術向上につながる対外展等への出品や出店等は今年度はこれまで以上に増えており、今後も意識高揚のためにもさらにその継続を図る。</p> <p>・調理技術検定等の実施の取り組みも必要と思われる。</p> <p>・これまでと同様に授業理解度/満足度アンケート結果を活用しつつ、より魅力ある授業やプログラムの実現に向けて教員が改善を図っていくと同時に、生徒への説明の工夫や理解を深める取り組みを図っていく。</p> <p>・2学年についても【学校全般について】で記述したとおりであり、現在、学年としても面談その他に取組中である。</p>			

【進路全般について】

項目	対象者	設 問	満足度%
1	生徒	本校は生徒の進路実現のために努力している	69
	保護者	本校は生徒の進路実現のために努力している	87
	教職員	教科、学年、部活動、講習等を通して、進路の自己実現へ向けての意識付けを行なっている	95
2	生徒	進路について必要な情報は得ることができている	66
	保護者	進路について必要な情報は得ることができている	82
	教職員	生徒・保護者へ進路に関する情報を適切に提供し、また教員間での情報共有に努めている	71
3	生徒	本校では進路に関する面接がよく行なわれている	62
	保護者	学校・担任に進路に関する相談はし易い	78
	教職員	生徒からの面接指導を含む進路に関する相談や作文指導、小論文指導等を計画的に実施している	71
評価結果について			
<p>・【学校全般について】でもあげているように、食物科での満足度の低さが全体評価へ影響している。食物科で大学進学等を目指す生徒にとっての進路指導の充実についてもさらに改善をしていく必要がある。進学を意識しての放課後講習を含めて、将来を見越しての食物科としての意識付けが重要といえ進路指導部・担任のさらなる連携が必要となる。次年度も、大学一般受験希望者の早期把握と進学講習への参加方法の改善を図る。</p> <p>・クラス担任も進路に係る知識をより深めるよう努める。</p> <p>・食物科は1年次より専門教科や実習によって進路意識が普通科よりも早くに醸成させるので、1年次より進路に関する相談体制を整備する。</p> <p>・ステップアッププログラム制完成年度における進路指導実績としてはその成果を十分に出していると考えられる。</p>			

【生徒指導全般について】

項目	対象者	設 問	満足度%
1	生徒	時間を守り、欠席や遅刻をしていない	83
	保護者	子供は時間を守り、高校生らしい規律ある生活を送っている	91
	教職員	本校生徒が高校生らしい規律ある生活を送れるように指導している	77
2	生徒	本校では、服装等、校則を守る指導を行なっている	86
	保護者	本校は、身だしなみ(頭髪・服装)、挨拶、礼儀、安全教育が行われている	98
	教職員	頭髪・服装・身だしなみ、挨拶・言葉遣い、礼儀、マナー等について、その場で指導している	86
3	生徒	挨拶や礼儀作法等の指導に真剣に取り組んでいる	83
	保護者	服装・頭髪等、本校の指導方針には理解・納得できる	93
	教職員	本校の生活規律についての指導を生徒・保護者に理解させている	76
評価結果について			
<p>・昨年、一昨年度に引続き生徒及び保護者の満足度は生徒80%以上、保護者90%以上である。教職員についてはさらなる向上を目指す意識が満足度77%、76%に収まっていると思われる。</p> <p>・女子を中心に服装や頭髪等での乱れが見られるようになっており、改めてその場指導の重要性を確認する。</p>			

## 2017 後期中間試験 生徒の自己反省&授業理解/要望アンケート集計結果

### 生徒の自己反省

- (1) 試験までの予習の取り組み度
- (2) 試験前までの授業態度
- (3) 試験までの復習の取り組み度
- (4) 試験までの課題・宿題等の提出
- (5) 今回の試験勉強の取り組み度
- (6) 今回の試験の点数満足度
- (7) スコア手帳の取り組み度

### 生徒の授業理解度・満足度

- (1) 教員の板書や話し方の工夫及び説明のわかりやすさ
- (2) 興味や関心を引く教材準備及び考えさせ、発表させる授業展開
- (3) 教員による授業中の生徒指導
- (4) 教員による生徒の長所を褒め、励まし学習意欲を高める努力
- (5) 机間巡視やコミュニケーションを大事にした上での熱心な指導
- (6) 生徒の授業理解度

教科	自己反省:5段階評価							AVE	1	2	3	4	5	6	7	AVE
	予習	授業態度	復習	課題提出	試験取り組み	試験満足度	スコア手帳									
国語	3.5	4.2	3.8	4.2	3.7	3.0	3.8	3.8	4.5	4.4	4.5	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4
数学	3.4	4.4	4.0	4.4	3.7	2.8	4.0	3.8	4.2	4.3	4.3	4.2	4.4	4.1	4.1	4.3
英語	3.7	4.1	3.8	4.2	3.6	3.1	3.6	3.7	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.3	4.3	4.4
理科	3.3	4.1	3.9	4.3	3.6	3.0	3.7	3.7	4.2	4.2	4.3	4.3	4.4	4.2	4.2	4.3
地歴公民	3.6	4.3	3.9	4.3	3.7	3.1	3.8	3.8	4.5	4.5	4.5	4.4	4.5	4.3	4.3	4.4
家庭	3.3	3.9	3.6	4.0	3.5	3.3	3.5	3.6	4.2	4.3	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3
AVE	3.5	4.2	3.8	4.2	3.6	3.1	3.7	3.7	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3

  

学年	自己反省:5段階評価							AVE	1	2	3	4	5	6	7	AVE
	予習	授業態度	復習	課題提出	試験取組	試験満足度	スコア手帳									
1	3.5	4.3	4.1	4.4	3.7	2.9	4.0	3.8	4.3	4.4	4.5	4.4	4.5	4.3	4.3	4.4
2	3.3	4.0	3.5	4.0	3.4	2.9	3.7	3.6	4.2	4.3	4.1	4.1	4.3	4.0	4.0	4.2
3	3.7	4.1	4.0	4.2	3.8	3.3	3.6	3.8	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5
AVE	3.5	4.2	3.9	4.2	3.6	3.0	3.7	3.7	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3

導入4年目になるこのアンケートは、各定期テスト後に、生徒一人一人の各科目の反省と私達教員の授業における生徒の評価を具現化したものである。後期期末試験の結果を利用していないのは、3年生が後期中間試験までであるので、この結果を2017年度の最終結果報告とする。

自己反省のAVEにおいて、昨年度の「3.7」から0.1ポイントアップした。授業理解のAVEは4年連続「4.3」を維持している。自己反省AVEと授業理解AVEの「差」が、開きが少なく、高い位置でキープしているのが理想である。

毎年言い続けているが、来年度こそは、生徒の自己反省AVEが4.0以上になるように目指していきたいが、それにむけて、ここ4年間、他のアンケート項目AVEと比べて最低値の項目(6)の向上のために、我々教員がどのように生徒に促し、満足度を上げていくべきかが課題でもある。

アンケートには、授業に対する、感想や要望を記入する欄があり、生徒からの生の声を聞くことができるので、私達教員一同が、生徒による評価を真摯に受け止め、今後の授業に活かす反省材料となり、このアンケート自体が生徒との信頼関係のツールにもなりうる。